

2016年 米子労音11月例会
”ミハル・カニユカ & 三輪 郁”
(チェロ & ピアノ)

感想集



プログラム

J. S. バッハ 無伴奏チェロ組曲 第2番ニ短調 BWV1008
ベートーヴェン チェロ・ソナタ 第2番ト短調 Op. 5-2
チェロ・ソナタ 第3番イ長調 Op. 69

アンコール曲

ベートーヴェン：モーツァルトの魔笛「恋を知る男たちは」の主題による7つの変奏曲
変ホ長調 WoO.46 より第6変奏
サンサーンス：白鳥

2016年11月28日(月) 米子市公会堂

その瞬間、柔らかに豊かな響きがホールに流れ出した。
調べは期待をはるかに超えてホールを満たしてゆく。



初めて例会を担当することになった私たちは、カニユカ氏とピアニストの三輪さんについて、そしてまたプログラムについて資料を集め勉強して皆さまにその魅力をお伝えし、約3か月間思いを温めてこの日を迎えた。素晴らしい演奏に感動した演奏会をいくつも経験したけれど、今回はひと味違うのだ。何だろう、このワクワクする感覚は・・・。

たちまち演奏に引き込まれて、チェロの豊かな表現で綴られたバッハを堪能したけれど、続くベートーヴェンがこれまた良かった。なんてチャーミングなピアノの音色。美しくしなやかに、時に力強くチェロと絡み合う。繊細さとダイナミズムを合わせ持つアンサンブル。音楽による対話とはよく言われるけれど、これは至高の対話だ。楽しい。ただ席に座っているだけなのに作品の人生を共有する感覚。幸せだ、そしてまたひたすら楽しい。公会堂を満たす豊かな響きの中で私たちも共振し、間違いなく最高のひと時を過ごした。演奏会の後言葉にできたのは「良かったよね。ほんとうに聴けて良かったよね。」これだけ。素晴らしい演奏の前に言葉の無力さを感じた瞬間。

こんなに素晴らしい演奏に出会える、本当に良いものを聴くことができる。これが労音例会の魅力だと改めて感じています。担当させていただいたことにとっても感謝しています。ありがとうございました。これからの例会を担当してくださるサークルの皆さま、どうぞよろしくお願いたします。そしてこの感動をもっともっと多くの方々とともに味わえることを願っています。

チェロとピアノに魅せられて



音楽を聴くのがとても好きであると云うだけで、専門的な点はよくわからない私ですが、今回の例会はとても素晴らしかったです。

これまでもチェロには魅力を感じていましたが、ミハル・カニユカ氏の演奏はどこまでも繊細で美しく、まずはこのことに感動しました。

更には、三輪 郁さんの力強く華麗なピアノ演奏とチェロの融合も圧巻で魅せられました。

今回は2つのコンサートを一度に堪能したような思いでした。このような心に響く音楽に接することができるのは嬉しい限りです。素晴らしい音色でした。間近で見たミハル・カニユカさんも三輪郁さんも素敵でしたが、2人の演奏される音楽に酔いしれました。どの曲も良かったのですが最後にアンコールで弾かれた大好きな「白鳥」は思わず鳥肌が立ちました。お二人の息の合った演奏にただただ聴き惚れた夜でした。

例会の翌朝、サークルの方から電話が入りました!!

「感激しました・・・・・・・・♥」



ミハル・カニユカの「J.S. バッハ、無伴奏チェロ組曲」を聴いているうちに、ケーテン城の鏡の間にいるような夢空間に・・・・

『バッハが好きでドイツのフェスティバルに何度か行きました。数年前、旧東ドイツの小さな町、ケーテン城で開催された「ケーテン・バッハフェスティバル」の無伴奏チェロ組曲の感動が、カニユカさんの名演奏で鮮やかによみがえり、お城の「鏡の間」にいるような素晴らしい時間でした。

体調と相談しながらの例会参加で欠席することがよくありますが「聴けてよかった!』と感動しきりでした・・・・・・・・。

プログラム最初のバッハの無伴奏チェロ組曲第2番では、カニユカさんの素朴で暖かなチェロの音色に、まず惹かれました。

それと、公会堂の響き! 柔らかくホール全体を包み込み、彼の意図する音楽を素直に届けてくれるかのようでした。

続いて、三輪郁さんのピアノを伴ってのベートーヴェンのチェロ・ソナタの第2番と第3番では、有名な第3番での力強い曲想もさることながら、第2番の明るく美しい音楽に曲の魅力を再発見できました。お二人の息もピッタリで、三輪さんの柔軟でしかも粒立ちのよいピアノは、「まろやか」とでも表現したいほど! これがウィーンの薫りなのかもしれませんね。

交流会にも参加させていただき、おまけに二次会にもものこのこついて行ってしまいました。気さくで、飾らないお二人とともに、楽しいひと時を過ごさせていただきました。

P. S.

会場で三輪さんのモーツァルトのCDを購入し、翌日早速聴いてみました。何と愉悦に満ちてしかもいとおしい音楽、モーツァルトを聴く喜びを心からかみしめました。交流会で左利きだとおっしゃっておられましたが、左手が利いていて両の手で会話をしているよう。。。いずれにしても、今度は、彼女のモーツァルトを米子で実現しなくては! 三輪さんの人柄もモーツァルトの生まれ変わり? といったら叱られるのでしょうか。でも、こんな方程式?



が、ふと浮びました!

MIWA = Mozart I (愛) Wolfgang Amadeus

一曲目が始まってすぐにバッハの世界に引き込まれてしまった。

適度な艶やかさと人肌の温もりを持った音色と、起伏に富みながらも無理のない自然体の表現で奏でられるバッハは何の抵抗もなく心に入り込んで至福の時を過ごさせてくれた。



さすがはチェコ国内でフランティシェク・ホスト（チェコ・フィルの首席ソロ奏者で、米子労音へはチェコ・フィル弦楽六重奏団のメンバーとして来演してソロ演奏も聴かせてくれた）と双璧と評される名手だ。

三輪郁さんとのベートーヴェンもしかり。加えて二人の生気に満ちた表現と対話がたいへん心地良く、スケールの大きさは無くとも室内楽のひとつの理想的な形を見たように思った。その点では2番のソナタが一番心に残った。3番のソナタなどもっと力強く雄渾な表現も可能だと思うし、そういう演奏を期待していた人には物足りなかったかもしれないが、こういう親密で愉悦感にあふれる演奏も悪くない。そこにはチェコ伝統の室内楽のスタイルがあるのかもしれない。派手さはなかったものの、いい音楽と演奏を聴いたと感じた例会だった。

それにしても公会堂の音響の良さも改めて素晴らしいと思った。（席は2階席中央あたり）音楽事務所のマネージャーも絶賛していたが、本当に残して良かったと思う。

とても素晴らしい例会でした。特にベートーヴェンは良かった。ピアノとチェロの呼吸がピッタリ、私の呼吸と演奏者もピッタリ?? 観ていても楽しかった。

素晴らしい音色でした。間近で見たミハル・カニユカさんも三輪郁さんも素敵でしたが、2人の演奏される音楽に酔いしれました。どの曲も良かったのですが最後にアンコールで弾かれた大好きな「白鳥」は思わず鳥肌が立ちました。お2人の息の合った演奏にただただ聴き惚れた夜でした。

例会を担当して

運営を担当することになり、ミハル・カニユカさんも三輪郁さんも知らなかった私は、「とにかくどんな音を出す人なのか」知りたと思いました。

プロフィールには、コンクールの優勝歴などありますが、それが取り組みイメージに繋がるでもなく、おまけに会員減少傾向に歯止めがかけられない中、会場が公会堂大ホールなのです。

借りた3枚の「カニユカさんのCD」を抜粋コピーするため、バッハの無伴奏・チェロの音が流れた時、「なんていい音だろう！」と思いました。こんな経験は初めてでした。

読んでも頭に入らなかったプロフィールですが、音の感動が、カニユカさんへの関心に変わりました。

担当サークルでそれぞれに聴いて、「良かった！」という声や、それに続く話題提供などがあり、例会への期待が膨らんでいきました。

当日の演奏は、はじめは運営のことが頭を離れず没入することができなかつたのが本音です。2部のベートーヴェンは何もかも忘れて聞くことができました。5月例会の「パスキエのベートーヴェン」も浮かんできて、ピアノと弦楽器の曲の共通点なども思ったりしました。カニユカさんの自分をしっかり持っていながら、自然体な雰囲気も感じました。事前の様々な知識が頭にあったからかもしれません。

私も一言

やわらかな笑顔を絶えないあたたかさ、豊かで奥深い演奏に感動!!

チェコの厳しい時代にありながら、その中で磨かれた音楽性、自然体のやわらかな雰囲気、豊かな人間性を感じました。

「プラハの春国際音楽コンクール」のこと

カニユカさん優勝、1984年。
現在コンクール常任委員会議長

「プラハの春国際音楽祭」は「スメタナの命日（5月12日）に“わが祖国”の演奏で幕を開けます」・・・担当集会で紹介
ドイツ占領から解放された1946年、チェコフィル創立

50周年を記念して開催、期間は3週間。コンクールはこの翌年（1947年）から始まる。

（・・・占領から解放され、開催した音楽祭とコンクール。その時、人々は『わが祖国』



会場のルドルフィヌムの内部

をどのような気持ちで演奏し聴いたのか、そして若い演奏家の登場を待ったのかと想像します・・・親しむ集い資料と担当のコメントより)

***** 例会后 会場で投函しました *****

- ・ソロはもちろん、一つ一つ音を大切にしておられるのがわかりました。ビブラートやトリルもとてもすてきでした。伴奏ではなく、呼吸のぴったり合ったアンサンブルは、最高でした。少ない人数で聴くのがもったいなかったです。
- ・力強く美しくとても感動しました。
- ・2人だけの演奏でしたが、フルオーケストラの様に聴こえました。

カニユカさんと三輪さんへ プレゼント

山陰の味丸出し鬼太郎グッズ、
手染め手ぬぐい&鬼太郎どら焼き



会 員 数 : 379 名 (新入会 16 名)
サークル数 : 50C
参 加 者 : 306 名 (参加率 80.7%)

【例会評価】

評価得票数 : 154 票 (投票数 50.3%)
評 価 点 : 100 点 (大変良かった 154)

私たちのサークルが運営を担当しました
相見、アケリアス、足立、アラネア、柿の種、里親、鈴の音、ダ・カーポ、
鬚物倶楽部、リラ、リリー